

## 推薦書

一般財団法人 エイブル奨学財団  
奨学金選考委員 各位

拝啓 貴財団ますますご繁栄の段、慶賀に存じます。

さて、このたび、私の研究室で卒業研究をおこなっている東京工業大学生命理工学院 学部4年の萩本紗理さんが貴財団の2021年度給付型奨学生への応募を希望しておりますので、推薦書をお送りいたします。

萩本さんは2018年4月に東京工業大学生命理工学院に入学し、2020年10月より私の研究室に在籍しております。研究室では、学部3年時の講義で興味を持ったGタンパク質共役受容体の活性化機構を研究テーマに設定し、綿密な研究計画を立案して研究に取り組んでいます。コロナ禍で研究がうまく進まない時も、自身で研究方法の本やテーマに関する論文を調査するなどの振る舞いからは、学問への探究心に優れていることが見て取れます。また学部生のセミナーや研究室内のセミナーにも積極的に参加し、入念に準備をしたうえで自分の発表を行っております。

萩本さんは国際交流に強い意欲を持った人物で、大学入学後、様々な活動に積極的に取り組んできたと聞いています。学部1年の2018年8月には、スリランカへの短期留学を経験しました。スリランカで最も著名なペラデニヤ大学にて行われたコンポジウムで、日本の大学生の生活や文化についてプレゼンを経験しました。プレゼン準備では積極的に意見をし、発表者の一人として活躍しました。別日に行われたペラデニヤ大学の学生との交流では日本のお菓子を持参し、両国の文化の違いを語り合うコミュニケーション力を発揮しました。また、スリランカの警察署長へ実施したテロや交通事故についてのインタビューを基に、帰国後学内で発展途上国の保安対策や交通事情について発表し、教授陣から高評価をもらったそうです。

帰国後には、より英語を学び諸外国への興味が増加したということで、本学のパートナーシップ制度（留学生と両者の母語を教え合う制度）を用いて留学生と積極的に交流を行っています。また、留学生とグループを組んで他国が直面する環境問題や社会問題について考え解決策を提案する講義を毎年受講しており、最終的な提案発表ではグループの意見を理論的に分かりやすく発表し、90点以上の高評価を受けました。2020年3月にはインドへ短期留学する予定でしたが、残念ながらコロナウイルスの影響で中止になりました。しかし、萩本さんはオンライン英会話やプログラミングの自学を続け、TOEICの点数を150点以上上げることができたそうです。また、他言語への興味も深く、前年度までに英語以外にロシア語、韓国語、ギリシア語の単位を取得しており強い好奇心の持ち主です。これらの実績を積み2021年4月現在、当大学の国際性涵養に特化した教育カリキュラムであるグローバル理工人育成コース中級の修了要件を既に満たしています。

大学卒業後は大学院へ進学し、製薬業界に携わりグローバルに活躍する社会人になることを目指

しています。その力をつけるために大学院では東京工業大学と清華大学のダブルディグリープログラムを志望しています。当プログラムに参加することができれば、海外での研究経験を積み、より専門性や人間性が高められると期待しております。

萩本さんは、広い視野を持ち、専門分野にとらわれず物事に積極的に取り組むことができる学生です。既に述べたように、世界へ目を向ける優れた資質を有していることに加え、積極的に情報収集を行い、実際に実行に移していることから、高い行動力を有していることを実証しています。計画を実現するために不可欠な、誠実な努力を継続できることも見て取れます。


このように萩本さんは、意欲にあふれ、将来的にグローバルな活躍を期待できる人物ですので、貴財団の給付型奨学生に最適な学生として強くご推薦申し上げます。

末筆ではございますが、貴財団のますますの御発展をお祈り申し上げます。

敬具

東京工業大学生命理工学院 教授

北尾 彰朗

北尾彰朗 

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1 M6-13

Tel: 03-5734-3373 Fax: 03-5734-3372

E-mail: [akitao@bio.titech.ac.jp](mailto:akitao@bio.titech.ac.jp)

<http://www.kitao.bio.titech.ac.jp/>



# 在学証明書

氏名 萩本 紗理  
生年月日 平成10年9月2日  
課程 学士課程  
所属 生命理工学院  
生命理工学系  
入学年月日 平成30年4月1日

上記の者は、本学に在学中であることを証明する。

令和3年4月19日

東京工業大学長

益 一哉



18B11976



